

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992500090		
法人名	ミツイ商事 有限会社		
事業所名	グループホーム えにし苑		
所在地	栃木県那須郡那珂川町谷川1609		
自己評価作成日	令和4年1月11日	評価結果市町村受理日	令和4年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanr.i.nsf/aHyokaTop?0

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)
訪問調査日	令和4年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

栃木県最東部の八溝山系の山あい広がる元小学校廃校を利用した施設です。地域の方にとっては親子代々の学び舎でもあるので、懐かしい馴染みの場所でもあります。廃校後に施設ができ、元学校に明かりがついていることに喜んで頂いています。地元の職員も多く、ご利用者様、職員ともに顔馴染みの関係でもあります。

ご利用者様一人一人の居住空間や生活ベースを大切に、自立支援に努めています。料理が得意な方は、野菜の皮むきや下ごしらえをして頂き、季節ごとにおやつ作りなどをしながら生活を送っていただいています。また、併設する小規模多機能ホームのご利用者様とも交流が図れるような環境を整えながら支援しています。地元特有の地域との関わりを大切に、蕎麦打ちボランティアの協力を頂き、打ち立てのお蕎麦を召し上がっていただいています。毎年恒例だった盆踊りでは、お囃子や太鼓は地域の方や子供たちに協力いただき、盛大に開催されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は自然豊かな場所に位置し、事業所の2階からは近隣の田畑や四季折々の里山の風景が楽しめる。利用者は、近くの菜の花畑を散歩したり、お花見や紅葉も楽しんでいる。事業所は元小学校を活用し、併設の小規模多機能型居宅介護事業所とともに、ゆったりした居住空間が確保されている。
- ・コロナ禍以前は、自治会で行われる地域清掃活動や新年会にも積極的に参加している。また、隣接の体育館で行われる地域包括センター主催の体操教室や地域ボランティアのそば打ち等を通じて地域住民との交流を深めている。
- ・利用者の健康管理は、かかりつけ医や協力医療機関と連携している。また、看取り対応も行っているため重度化しても安心して過ごすことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・唱和を行い意識付け、共有できている ・理念に沿った考え方や行動ができるよう実践している	事業所の正面玄関や事務室内に理念が掲示されいる。毎日のミーティング時に、職員全員で理念を唱和し、常に職員が理念を意識付けできるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ禍で自粛 ・地域の自治体に加入し交流を深めている	事業所は自治会に加入している。現在はコロナ禍のため自粛をしているが、地域美化活動や総会・新年会等に参加して交流を深めていた。また、自治会の行事が事業所に隣接する町の体育館やグラウンドで行われ、職員や利用者が参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・コロナ禍で自粛 ・広報誌を発行し、取り組みを報告している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・意見要望等はサービスに繋がるように活用できている ・様々な視点からの意見が頂けるため、大変勉強になり、話し合いサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍のため書面会議が4回、集合会議を2回、実施している。会議のメンバーは、役場職員や自治会の区長、利用者と家族、法人代表、職員等の計16名が参加している。事業運営の報告・質疑・情報交換等行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・包括・民生委員の協力を得られるよう、情報の発信をしている ・研修時や電話等で連絡相談報告をし、連携を図っている ・困難事例の緊急受け入れの取り組み	役場職員や地域包括支援センター、民生委員等と連携を図り、事業所の空き情報等の共有をしている。また、福祉に關しての地域住民の困りごと相談を役場の福祉課と連携して取組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・社内研修や委員会で行っている ・マニュアルの作成と徹底 ・身体拘束排除委員会での取り組み	職員は定期的に身体拘束に関する研修を受講している。また、身体拘束をしないケアの社内マニュアルも作成されている。玄関は夜間を除き施錠せず、利用者が自由に戸外へ出ることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・社内研修の実施により、理解を深め虐待の早期発見や防止に努めている ・身体観察の実施		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施により理解を深めている ・必要性に応じた支援に繋げられるよう努めている 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・一項目ずつ説明を行い、納得されたうえでの契約となる ・わかりやすい言葉の選択 ・介護保険の説明をわかりやすく行っている 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・来苑時や電話等で要望や意見を聞いている ・ご意見箱の設置 ・運営推進会議の実施 	運営推進会議や家族の来訪時、電話連絡等の機会に意見・要望を聞き取りできる限り改善している。また、利用者との日常会話やケアの中で要望・意向等を職員が聞いて運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・面接や会議等で意見を吸い上げ、反映するよう努めている ・個人面談の実施 	年一回、施設長と職員の面接を実施している。本人の業務目標・成果・反省等の共有化をしている。運営に関する意見・要望等も聞き取り業務改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の状況をよく把握し、環境条件の整備に努めている 		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパス一覧表により、求められる能力や研修等を受けるよう導いている 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に参加する場を設けている ・外部研修に参加している ・交流会や研修の参加によりネットワークの構築を図り、サービスや質の向上に努めている 		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人とコミュニケーションを図りながら、不安や要望の聞き出しを行い、安心して利用できるようにしている ・表情や言動の観察を行いながら、安心してサービスを受けられるよう助言している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族とコミュニケーションを図りながら、困っていることや要望の聞き出しを行いサービスにつなげている ・表情や言動の観察を行いながら、安心してサービスを受けられるよう助言している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・聞き取りを行い、GHを利用することで改善できるかを考え、他のサービスも踏まえ説明を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・尊敬する気持ち、お客様であることを念頭に置き支援し、関係性を築いている ・協同して気持ちいい生活が送れるよう、関係性の構築に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・コロナ禍で面会の制限はあるが、電話やガラス越し等で顔が見られるようにしている ・面会時に様子をお伝えし、本人や家族に寄り添い関係性を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナ禍により自粛しているが、電話や窓越しでの面会等で関係性が途切れないよう支援している ・昔の話をするなどし、会えない時間でも思い出せるよう支援している	コロナ禍のため馴染みの人との交流は、窓ガラスを挟んだ面会や電話での対応をして、関係性維持を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・他利用者と関わりを持ち、安心して充実した暮らしができるよう支援している ・寄り添える支援の実施に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・いつでも相談や支援できることを伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の意向を尊重し、より良い介護ができるようケアミーティングを行い支援している ・生活歴の把握や、本人からの事前聞き取り家族の意向等を照らし合わせ、意向の把握に努め支援している	職員は利用者一人ひとりと寄り添い、話す機会を設けている。本人の希望や意向の把握に努めている。意向を伝えることが困難な利用者には、表情等を読み取って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・個人の生活スタイルを尊重しながら過ごしてもらうようにしている ・生活歴の把握や、本人からの事前聞き取り家族の意向等を照らし合わせ把握に努め支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・体調の管理や本人ができること維持や役割をもち、自信をもって楽しく過ごせるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画に基づいたサービス状況を話し合い、目標の変更や支援内容を変更している。 ・日常の変化に気づき、話し合いを行いながら計画書に反映している	職員ミーティングやケア会議、モニタリングの結果を踏まえ、本人・家族の意向を反映した介護計画をケアマネジャーが作成している。また、利用者の状態に変化があった場合には、介護計画を随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・記録がいつでも役立つように記録するよう努めている ・個別計画書に基づき、記録や情報の共有を行い支援することで、見直しに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・日々変化するニーズに柔軟に対応できるよう、職員間での気づきや、利用者の声、体調の変化等を常に共有し、サービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域資源の把握ができていないが、安全で豊かに生活が送れるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者の日常的な様子を伝え、適切な服薬や処置をしている ・休日、夜間帯も対応している ・協力医と連携している	入居する前の今までのかかりつけ医を継続するか、または事業所の協力医を選択することができる。かかりつけ医の通院は家族対応であるが、都合がつかないときは事業所が支援している。協力医は月2回の往診となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調の変化、早期発見に努め、看護師への報告と情報を共有し支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・電話連絡や情報の共有等で関係を築いている ・拡大カンファ等で情報を共有し、共通認識、共通支援のもと関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・主治医との連携の下、家族や本人の意向を聞き取り今後の方針を話し合い支援している	事業所で看取りを行っており、入居時に本人・家族、関係者と話し合い終末期の方針を決定している。終末期には、本人と家族が一緒に過ごせるように居室に簡易ベッドを用意することができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・協力医への連絡、救急車要請、対応、AEDの使い方等を学び実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の避難訓練の実施 ・連絡網には地域の方の協力を得ている	昼間想定火災訓練を消防署の立合いで年2回実施している。地震や水害時等の訓練は実施していない。地域を含めた緊急連絡網を整備し、地域の方に配布する予定である。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・尊厳やプライバシーの研修を行い、日々の支援に活かしている	職員は尊厳やプライバシーに関する研修を受けて、日常の業務に活かしている。利用者の呼び方は「～さん」を徹底し、馴れ合いにならないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・希望を伺いながらの支援や、選択できるようにし自己決定ができるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人のペースでゆったりと生活されている ・自己決定ができるような言葉かけをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご自分で選択できるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事形態・食事量・食器等を個人に合ったものを使用している	食事は法人内の給食部門から配送されたものが提供されている。利用者の状態に合わせて刻みやペーストにして提供している。毎月25日は、誕生会の日と定め特別メニューで刺身や赤飯も提供している。	月に数回は利用者の好みを取り入れ、地元食材の手作り料理の提供を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食札に記入し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアの実施 ・歯の大切さを話す		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう促している	トイレでの排泄をするため、排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら誘導している。利用者によっては、夜間のみポータブルトイレの支援を希望する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・薬剤での排泄コントロール ・排泄のサイクルを把握し、職員同士で共有している ・乳酸菌飲料の提供		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・希望に応じた対応をできる範囲でしている	入浴は午前中に実施し、利用者は週2回以上は入浴している。リフト浴が設置されているので、重度化した利用者も入浴することができる。季節に応じて、浴槽に柚子やリンゴなどを入れて入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・自由に休息をとっていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・調剤一覧表を作成し把握に努め、情報の共有を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・得意なことを活かせるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・季節に合わせての外出支援の実施	コロナ禍のため、遠方への外出は難しく近隣を散歩している。事業所の隣のグラウンド内や地域の菜の花畑までの散歩を行っている	コロナ禍でも、感染予防を取りながらドライブ等による外出の機会を持つことを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金は所持しておらず、希望を聞き家族に伝え購入いただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・依頼があればできる限り支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感のある花を飾っている ・タペストリーに行事に合わせた飾り付けをし、温かいもてなしに結び付けている	リビングは窓が大きく採光が入り明るい場となっている。また、職員が持ってきた季節の花が飾られ、季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・座席の配置の工夫や共有スペースにはマッサージチェアやソファを置きくつろげる空間づくりに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人が希望するものであれば、家族に連絡し部屋に飾るようにしている	本人の使い慣れた椅子や日用品を居室に持込み、居心地がよい空間が作られている。また、イベントや誕生日に撮影した写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・目印をつけるなどの工夫をし、できることやわかることの促しをしている		